

宗教者九条の和

ニュース・レター

2018年5月3日（憲法記念日）発行 36号

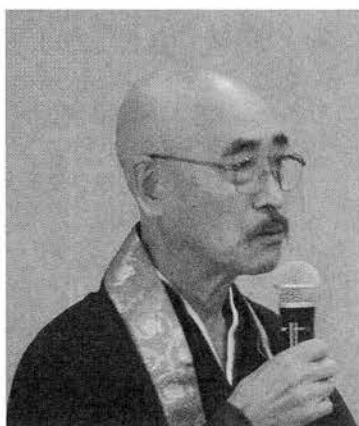
3000万人署名を達成して安倍政権に退場を

真宗大谷派僧侶・日本宗教者平和協議会理事長 荒川庸生（あらかわ ようせい）

54年間続いている「久保山愛吉墓前祭」

ビキニ環礁でのアメリカによる史上最大規模の水爆実験から64年目の3月1日、3・1ビキニデーが行われ、焼津市の弘徳院では「久保山愛吉墓前祭」が営まれました。

ビキニで被災し同年9月に亡くなられたマグロ漁船・第五福竜丸無線長の久保山愛吉さんを追悼



し、久保山さんの最後の言葉「原水爆の犠牲者は私を最後にしてほしい」に込め、核兵器の廃絶を願い実現する原水爆禁止運動の一年のスタートを期するつどいです。

墓前祭は久保山家の菩提寺である弘徳院住職を導師に焼津市仏教界有志による追悼法要で始まり、各団体代表が久保山さんの遺影に向かって、核兵器廃絶の思いを「誓いの言葉」として捧げました。その間、久保山さんご夫妻が愛し育てていたという真紅のバラを手にして、焼津駅から墓参行進してきた全国からの1500人の参加者が献華・焼香しました。墓前祭は被災10年後から、日本宗教者平和協議会が54年の間にかすことなく開催してきました。久保山愛吉さんの遺言が1日も早く実現することを願うものです。

福島で「諸宗教の祈りのつどい」を開催

3月は8月とともに、平和を希求する私たちにとって重要な月として位置付けられます。

1日のビキニでの広島・長崎に続いて3度目の核被災、10日の10万人が戦災死された東京大空襲、そして3月11日の東日本大震災とその後の東京電力・福島第一原発の爆発とメルトダウン。福島では数万人

の人々が故郷を追い出されたままであり、避難による関連犠牲者が大震災による直接の犠牲者を上回っています。また、放射線被曝による甲状腺ガン患者が子どもを中心に異常なレベルで発生しています。

しかしながら、安倍首相が「福島の放射能は完全にコントロールされている」と世界を欺いてオリンピックを東京に招致したのと同様の手口で、原発事故避難者への補償が次々と打ち切れようとしていることに心が痛みます。

日本宗平教は3月12日・13日、犠牲者追悼 原発廃止・廃炉を願う「諸宗教の祈りのつどい」を福島で開催しました。仏教各派、キリスト教、天理教、神道の祈りがいわき市の日本基督教団常磐教会と檜葉町の宝鏡寺で手向けられ、原発事故被害地の浪江町請戸地区などで仏教とキリスト教の鐘が打ち鳴らされ、犠牲者の追悼と救済が祈念されました。

世の中安穏なれを念願

しかし、私たちの願いとは裏腹に、安倍自・公政権は民意を顧みることなく暴走を加速し断末魔のごとき状況を呈しています。憲法破壊への執念、原発再稼働と外国への輸出、核兵器廃絶への国際的機運の拒絶、沖縄の辺野古巨大基地の押しつけ、南北朝鮮民族和解への揶揄と中傷等々。どの世論調査を見ても反対意見が多く国民の意思とかけ離れています。あらゆる生命をいとおしみ、世の中安穏なれを念願する私たち宗教者としても容認できるものではありません。

「モリとカケ キツネとタヌキは 知らん顔」「モリとカケ 税金ザルに 垂れ流し」が焦点となっていますが、かつてこれほどハレンチで、民意を無視する政権を私は知りません。かくなる上は、ズル逃げを許さず、こぞってお引き取りいただき暴政を食い止めるより他に、この国と世界の安穏はありません。

今、私たちが守り、子らに伝えるべきもの

日本キリスト教協議会・総幹事

金 性 済 (きむ そんじえ)

南北首脳会談・劇的な転換

4月27日、朝鮮半島の板門店で、世界が驚愕をもって注目する南北の指導者の対面と会談が行われた。両首脳が朝鮮半島を引き裂く38度線上で握手を交わし、互いに手を握り、境界線をまたぐということが行われた。

つい昨年まで、北朝鮮による度重なるミサイル発射、核実験、そして戦闘をも辞さない激化する非難の応酬を米朝の指導者間で交わし合い、陰鬱と緊迫の空気が世界に広がっていたことを思うと、劇的な転換ともいえる。



日本のマスコミ・欠落している視点

ここ日本では、先日まで、森加計問題で彩られていたテレビのワイドショーも、一挙にその日以来、朝鮮半島問題の特集するようになった。

しかしながら、日本のワイドショー、ならびに評論家たちの論評を見渡すとき、色濃く目立つ見方は、この度の板門店での南北頂上会談を、実質的な非核化に至ると考えにくい「政治的ショー」という言葉であった。そこに全く欠落するものが二つある。それは第一に、この度の出来事を、朝鮮半島、及び北東アジアの歴史的文脈でその意義をとらえるということ。今一つは、北東アジアにおける戦争と平和という地政学的なテーマである。

朝鮮半島の歴史・分断から対話へ

1910年に始まる36年に及んだ大日本帝国による、朝鮮の植民地支配。戦後の朝鮮半島の分断はこの36年と無関係ではない。そして、45年8月の解放。しかし、米ソ冷戦の開始した国際政治に翻弄され、朝鮮半島内部が左右イデオロギーで軋轢と混乱を増し、結局、48年に済州島島民大虐殺の悲劇を起こしたのち、8月と9月に、南北が別々に独立国家樹立を宣言。

その後、ついに冷戦は火を噴き、血を流す朝鮮戦争の勃発に至り、1953年に38度線で停戦し休戦協定に至る。以来、北は社会主義独裁、そして南の韓国も独裁政治が継続し、1987年に至り、ついに韓国は民主化にたどり着いた。金大中政権のもとで、「太陽政策」という、統一をめざす対話路線が打ち出されたが、その後何度も曲折を経ることになった。

2014年4月、朴槿恵政権下、セウォル号沈没事件が起り、その対応における無責任問題と其後の政権の汚職腐敗に対してついに韓国民衆は2016年11月から立ち上がり、100万人を超える人々がローソク・デモを繰り広げることによって無血市民革命によって朴槿恵政権を打倒して、文在寅政権誕生に至った。

南北会談の意義・不戦と非核化へ

この度の南北会談の成果を、単純に北朝鮮の非核化の目標からすれば、成果なし、と皮相な評価を下

す前に、私たちはしっかりと認識しなければならないことがある。それは、朝鮮半島の統一問題は、単に一つの民族の歴史的な所望の問題にとどまらず、現代における北東アジアの平和の道標として認識されるべきこと。今一つは、もう二度と戦争を起こして、血を流し合う道を選んではならない、という不屈の理念の下で文在寅政権は、核実験とミサイル発射で乱暴な瀬戸際外交をしてきた北朝鮮の金正恩委員長体制との間でこの度の南北会談と不戦の合意、そして非核化の約束にたどり着いたということである。

まだこれから、米国をはじめ、中国、ロシア、日本など、周辺諸国の拮抗する政治バランスの中で時間をかけて、忍耐強く進展させていかなければならない課題が山積している。しかし、もう後戻りできない、という乾坤一擲の思いを秘めながら、両指導者たちはこの道を推し進めていくことであろう。

時代の流れに逆行する安倍政権

この状況の中で、日本に暮らす私たちは自分の立ち位置と方向を、しっかりと自覚しなければならないのである。2012年以来、安倍政権は今日に至るまで憲法九条の変更をはじめとする、「敗戦後連合国に押し付けられた」日本国憲法の改定の理由として、北朝鮮問題を繰り返し取り上げてきた。

今時代の流れは、戦争の道を避け、忍耐強く終始対話の道によって北東アジアの平和は実現されるべきであることが4月27日の出来事によって示された。今、安倍政権の頑なに推し進める道は、この平和への叡智に逆行する愚かしさが一層露呈し、世界から浮き上がっていることに、日本に暮らす人々は目覚めるべきであろう。

今や日本の政治には「ノブレス・オブリージュ<高貴とそれに伴う、自分に厳しい責任感>」が無残なまでに失われている。ここまで頹廃しても「公」、「おかみ」には盾を突かない、という伝統的な政治文化は世界から奇異なものと映り、孤立するほかない。「公」の権威をかさに着て、「敵国」意識を煽りながら立憲民主主義を壊していく、このような衆愚政治を野放しにする社会の中で私たちは次世代を生きる子らを育ててよいのだろうか。

何を守り、いかに伝えるか

二つの世界大戦を体験した人類の叡智とは何か。植民地支配の受けた国々の人々の歴史体験に思いをはせることのできる豊かな共感の感性と歴史を直視反省できる良心と誠実。ここから暴力と戦争ではない、和解と共に生きる平和への道が分かち合われる。

憲法九条を日本と世界の誇りとして死守し、国家特定秘密保護法、安保関連法、そして共謀罪という悪法を、この世界の中で、私たちの愛する大切な子どもたちに受け継がせることがないように、私たちは今こそ目覚め、立ち上がり、立憲民主主義を保守するたたかいを、それぞれの信じる神聖なるもの／方に見つめられていることを覚えながら広げていかなければならない。

(金性済さんは、新しく「宗教者九条の和」呼びかけ人になられました。)

今こそ十七条憲法の精神を

日蓮宗僧侶・お題目九条の会会長 石黒友大 (いしぐろ ゆうだい)

滅びの道しかないのか

時代の流れが加速度的に変化する現代、私達は今、何を選んで何を捨てなければならないのか。

この国も世界も、問題は山積みで、何も解決しないまま、また次の問題が起きて、またそれも解決しないままに、ただ時だけが過ぎて行く。残された道は、滅びの道しかないのか。そんな事をふと思う時がある。



ご子息と共に、仏舎利塔(パコタ)をお参りする筆者

地球温暖化をどう見るか

3月14日、イギリスの理論物理学者、スティーブン・ホーキング博士は、このまま人類が方向転換をしなければ、地球温暖化は、更に加速し、100年地球はもたないだろう。と言い残してあの世に旅立った。

それは、今にも増して、北極の氷が溶け始め、太陽光の熱を跳ね返すミラーの役割が失われ、更には、永久凍土の中にある、CO₂の20倍の温室効果のあるメタンガスが溶け出すともう後戻りは出来ない。

もしこれが真実なら、こんな恐ろしい事はない。知りたくもないし、見たくも聞きたくもない現実であろう。全く逆のことをいう学者が現れるのはその為だろうか。

科学的事実と法華經の世界

自らの価値観に合う様に都合のいい情報を集める。極端に言えば、都合の悪い事は、情報収集しない。意識的であろうとなかろうとその様になる。極めて科学的客観的なデータを収集したとしても、法華經の説く一念三千の世界では、それもまた、各々の一念の欲する処によるものである。

地球温暖化を肯定するものも、否定するものも、それぞれが自分の都合の良い情報を集める。科学的事実と称するものも、都合の良い様に解釈する。そこに論

争がまた起こる。何れにしても、物質的には有限の地球に住まわせて頂いている事実には違いはない。

深まる東西の亀裂

先進国と途上国という二極化によって、抑圧され生まれた歪みが、莫大なエネルギー消費となって、津波の様に押し寄せている。

かつてのシルクロードやインド洋の貿易の拠点は、瞬く間に中国資本に買い占められ、ユダヤ資本のやり口を真似た手口の成れの果てに世界はどう動いていくのか。大量の米国債を握り締めた中国が尻尾を掴んだかのように、ジリジリと米を脅かす、この脅威に米はどう動くのか。

再び深まる東西の亀裂を象徴するように、先日、また米英仏が、シリアを攻撃した。またもや天魔の手先が、甘い言葉でジョーカーをチラつかせながら近づいてきている。

礼拝と和合の精神

我々日本人には、聖徳太子の定めた十七条の憲法の精神が息づく。右か左か、YESかNOかではなく、法華經の精神に根ざす礼拝の精神と和をもって尊しとなすとの精神をして、各々の信ずる宗教の御神仏のはからいの元に、今こそ更に和合する。

如何なる武力も軍需産業も、それに順ずる如何なる法案も政策も平和憲法改悪も、人殺しに関わる全てに強く抗議して反対する。

耳目を広げて行動しよう

70億のあらゆる人種と人類の錯綜する一念の想いの渦の中心にいるのが私であり貴方である。それが、今見える現実の世界の姿である。

73年前の敗戦と2発の原爆と焼野原に横たわる累々たる屍の一念と、毒された福島海と大地の叫びに今こそ耳を傾けて、眼目を見開いて学び、そして、各々の信仰の寸心をあらため、一念をシフトしなければならない。

(石黒友大さんは、新しく「宗教者九条の和」呼びかけ人になられました。)

「宗教者九条の和」は、「平和をつくり出す宗教者ネット」に協力して、毎月の国会祈念行動を行っています。
5月24日(木)・6月7日(木)・7月12日(木)・8月23日(木)
各日共、午後2時から国会議員会館内

「憲法9条のビジョン（幻）を生きる」

関西学院大学教授・宗教主事 山本俊正（やまもと としまさ）

日本人のアジア認識と差別意識

今年は明治維新から150年になります。日本人のアジア認識は明治維新以降、アジアへの「侵略」と「連帯」を表裏一体とする思想として形成されてきました。またその認識は、アジアに対する日本人の差別意識の根底に横たわる基層を形成しました。



明治初期に主張された「和魂洋才」、「脱亜入欧」、「アジアは一つ」もその内実は、「侵略」と「連帯」の両方向性を内包していました。「アジア」は19世紀後半、日本の明治維新、文明開化の過程で、一方では文明度の低い地域と見なされていました。また他方でアジアは、欧米に抑圧される対象であり、欧米の利権争奪競争の対象地域として特徴づけられていました。

日本は日清戦争、日露戦争に勝利することによって、アジアにおける優越した地位を獲得し、他のアジアに比べて進んだ存在であるという認識が、一方で増幅されたのです。

「戦争する国」から「戦争しない国」へ

過去150年間を振り返れば、その約半分の期間、第2次世界大戦の終わりまで、日本はアジアで10年毎に戦争をしていました。戦後70年以上もの間、戦争をせずに、他国を攻撃することもなかったという事実は、日本の近代史の中でも珍しいことです。

この歴史的事実を可能にしたのは、日本が平和憲法を持ち、9条を保持していたことに大きな理由の一つがあると思います。近代史の中で戦争の被害にあったアジアの人々は、日本の憲法9条を過去の戦争への「悔い改め」の証として受け止めました。平和憲法は、過去に被害を受けたアジアの人々にとって、日本が2度と「戦争をする国」にはならないための、大きな歯止めとなったのです。

「非暴力国家」の宣言

旧約聖書のイザヤ書2章4節に「彼らは剣（つるぎ）

を打ち直して鋤（すき）とし、槍（やり）を打ち直して鎌（かま）とする。」という言葉があります。ニューヨークの国連本部前に、この句が書かれた平和モニュメントが置かれています。

預言者イザヤが活躍した紀元前8世紀は、イスラエル民族が南北、二つの王国に分かれていました。北のイスラエル王国がアッシリアに攻め滅ぼされ、南のユダ王国も戦乱の悲慘に巻き込まれていました。敗残の小国としてアッシリアの支配に屈したユダ王国は無力感と絶望とに打ちひしがれていたのです。

このような状況下で預言者イザヤは、武器を捨てて平和を選び取る意思、「戦わない」ビジョン（幻）を明確に示し、人々に呼びかけました。憲法9条ができた時の日本の荒廃した状況に、非常によく似ています。預言者イザヤは、いつの日か、この敗戦国を多くの国々が敬意を持って仰ぎ見ることになるかと告げています。しかしそれは、軍事力を回復し、武力によって敵を屈服させるという復讐の宣言ではありませんでした。

そうではなく、「国は国に向かって剣をあげず、もはや戦うことを学ばない」という「非暴力国家」の宣言でした。その結果として、この国が世界に仰がれるようになるかと主張したのでした。

「戦わない」意思とビジョン（幻）

日本国憲法の前文には、「われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ」と書かれています。敗戦後に定められた日本国憲法も、「武力による平和」という国際政治の現実主義を否定し、もはや「戦わない」意思とビジョン（幻）を明確に示したのでした。

アジアの人々と共に9条を生きる

現在の安倍政権は政治を「私物化」した結果、「レームダック」化しています。憲法の改悪は一時的に頓挫するかもしれませんが、しかし、抑止論に基づく「武力による平和」が国際政治の舞台で叫ばれ続ける限り、日本の憲法改悪の動きは再起動され続けます。

日本社会に生きるキリスト者の一人として、また宗教者の一人として、預言者イザヤのビジョン（幻）を引き受け、アジアの人々と共に、憲法9条のビジョン（幻）を生きる者でありたいと願っています。

「剣を取る者は皆、剣で滅びる」

日本キリスト教協議会議長 渡部 信 (わたべ まこと)

「狂気」の歴史

2017年の夏、広島市の平和記念資料館を訪れ、戦争の悲惨さに改めて感じ入りました。

その戦慄は、中国のハルビンで、日本軍が捕虜を「丸太」と称して様々な異常な環境を造り出し人間が死に至るまでの時間と容態を医学研究の対象として人体実験をしたその施設を見学した時に、カンボジアのトゥール・スレン虐殺博物館で、校舎を捕虜拷問室に改造し外部には何もなかったように密かに一人ひとりを死に追いやったその場所を見学した時に、ポーランドのアウシュビッツ収容所で、大量殺りくの方法としてガス室に数百万が送り込まれ命が失われたその収容バラック跡を見学した時に、リトアニアのヴィリニウスで、旧ソ連時代に秘密警察(KGB)によって一般市民が捕らえられ日毎ごと10人を拷問・処刑し計3万人が犠牲になった建物の地下牢(現在はKGB博物館として公開されている)に足を踏み入れた時に受けた衝撃と、全く同じものでした。

人間の理性を超えた狂気がそこにありました。その狂気はいまだにそれらの場所に漂いながら訪れた人々の魂を揺さぶり続け、慰めようにも慰めえない無念さに震えました。

「悲劇」の土壌

人は、夫婦間、親族間、民族間、国家間で敵意を醸造しても、理性ではその敵意を消し去ること



はできません。否、人の理性は敵意を正当化することさえあります。その敵意は更にもう一つの敵意を生み出し、連鎖していきます。ここに人類の罪の深さと悲劇があるのではないのでしょうか。

そのような人類の土壌が放置されるところには戦争・紛争が幾度となく繰り返され、それは悲劇の中の最も大きな悲劇と言えるでしょう。初めは安泰で平和な社会のように見えても、この狂気のマグマが地表に吹き出ると、もはや誰もそれを止めることはできないのです。

隣人愛から人類愛へ

聖書は「神を愛する」とことと「隣人を愛する」とこと、この二つが最も大事な戒めであると書いています。まず身近なところからこの福音を宣べ伝えていかなければなりません。

小さな愛と善意はまず家庭から、そして社会に、最後に国家間で少しずつ成長し大きくなり、そこに聖書が示す「神の国」が在ります。

聖書には「暗闇に追いつかれないように、光のあるうちに歩きなさい。暗闇の中を歩く者は、自分がどこへ行くのか分からない。光の子となるために、光のあるうちに、光を信じなさい。」との箇所があります。人は、隣人を愛し、隣人を赦すことから互いへの信頼が生まれ、その真の光のあるうちに人類愛を築くことができるのです。

戦争の地獄を見た日本は「戦争の放棄」という「平和憲法」を遵守し、闇の力に追いつかれないように、光の内を歩まねばなりません。皆様、共に心を一つにして歩んで参りましょう。

(渡部信さんは、新しく「宗教者九条の和」呼びかけ人になられました。)

「宗教者九条の和」ニュース・レター36号の発行にあたって／事務担当者 日本山妙法寺僧侶 武田隆雄

今年2回目の発行となりました。5・3憲法集会は6万人の方々、東京・有明防災公園に集まり、大阪でも2万人の方々が集まりました。全国各地で数多くの集会が開かれ、創意工夫した3000万人署名行動も日増しに広がっています。ニュース・レターに掲載された5人の宗教者の方々の力強い心からのメッセージをいただきました。3000万人署名達成に向けて、シスターたちもがんばっています。宗教者と市民が、さらに協力・共同し、日本を「戦争する国」にしないため、全力を尽くし、祈り行動してまいりましょう。合掌 (2018.5.3)

「宗教者九条の和」 呼びかけ人 80名 賛同人 1327名 (2018年5月3日現在)

2018年4月15日（日）

朝日新聞

（毎日新聞はじめ他のメディアも報道しました。）



森友学園や加計学園の問題などを追及する市民集会が国会議事堂前であった14日、カトリック教会のシスターらも新宿駅西口の街頭に立ち、「子供たちに希望ある未来を残そう」と訴え

平和と改憲反対訴え 新宿でシスターら

て、憲法9条の改正に反対する署名を集めた。週末の駅前を行き交う人らが次々と応じた。

初めて街頭に立つシスターが多い中、仏教など宗教や宗派を超えて百人近く集まった。神社の宮司もマイクで「戦争反対」を訴えた。シスターらは歌もまじえながら「平和が一番、命が一番」などと協力を呼びかけた。この日に始まった米国などによるシリア空爆にも抗議の声をあげた。呼びかけ人の1人、清水靖子さん（80）も久々の街頭活動で「若者から年配まで多くの人が署名に協力してくれた。SEALDsの若者たちの立ち上がった勇氣と願いに共にがんばっていき」と語った。

安倍九条改憲 NO！ 集めよう 3000 万人署名に 寄せられたメッセージ

- ・九条を守る意義と必要性を広く国民に訴えていきたいと思います。（カトリック長崎大司教 高見三明）
- ・安倍首相の好戦的野望を阻止することに歴史的使命を感じます。（カトリック・シスター）
- ・宗教者九条の和の活動は私にとってかけがえのないものです。世界の真の平和を祈ります。（金光教信者）
- ・厳しい状況、だからこそ九条を！ 教派を越えて。
（カトリック信徒）
- ・私どもにも意志表示の機会を与えて下さり、感謝いたします。ご活躍をお祈りします。
（防衛省勤務の元自衛官）
- ・今年は9条の命運を決すべき年になりそうです。「宗教者九条の和」ニュースレター35号の呼びかけの方々の力強いメッセージに元気をもらいました。
（熊本子育て九条の会）
- ・メディアも教育もおさえこまれた今、最も力を持ちうるのは宗教だと思います。どの宗教も「殺すな、殺されるな」と教えています。このことにもっと正面から向き合わねばならないと思います。（キリスト教徒）
- ・世間の風になびいていく人が気になります。改憲の風を起こさないようにしなければならないと思います
（カトリック信徒）

- ・私たちも「安倍政権の腐敗と劣化」にNOの一員に加えられていることをうれしく思います。

（プロテスタント信徒）

- ・九条改憲派が狙っているのは、2項そして1項の無力化です。3項を加え自衛隊を明記するというのは、本丸を攻めるために外堀りを埋めようとしているに過ぎません。九条を堅持するために、これからも力を合わせていきましょう。
（秋田市の方）
- ・今こそ宗教者が生命と人権の大切さを、立ちあがって守っていききたい。
（カトリック修道院）



「9条改憲NO！ 5.3憲法集会」

5月3日 東京・有明防災公園にても開会

1350 万人到達

宗教者九条の和

〒150-0045 東京都渋谷区神泉町8-7

日本山妙法寺内

TEL 03-3461-9363 FAX 03-3461-9367

WEB <http://shukyosha9jonowa.org>

郵便振替 00140-0-1-260524 「宗教者九条の和」

平和憲法、 変えたら どうなるの？

国民投票に850億円!?「現状と変わらない」ってホント？

今までは、憲法9条を理由に 戦争参加を拒んでいた



アーミテージ元国務副長官

必ず憲法9条が
バリケードの
ように道を塞ぐ

1950年 朝鮮戦争
1965年 ベトナム戦争
1990年 湾岸戦争
2003年 イラク戦争 etc

日本は憲法9条で戦争を放棄してきたからこそ、中立的な立場で敵を作ることなく、世界の信頼を得ていました。だからこそ、テロにも狙われることはありませんでした。アメリカから戦争に参加しろと迫られても、憲法9条で戦争を放棄しているから、と断り、戦後73年間戦死者を一人も出さずに済んできたのです。

安心して暮らすための本当の安全保障

北朝鮮の核・ミサイル問題を考えると不安だからと、軍備増強をすれば、安心安全な世の中になるのでしょうか？

7～8分で飛んで来るミサイルにJアラートを鳴らしてもどうしようもできません。原発に打ち込まれたら逃げ場はありません。すべてを撃ち落とすことも技術的に不可能です。有効な防止策は、近隣諸国との友好関係を保つ、政治的な外交手段だけです。北朝鮮、韓国、米国は、対話外交へと舵を切りました。世界各国は平和外交=対話で解決をと、この流れを支持しています。

「わが国を防衛するため」= 国防が優先される日常へ

「国防」が憲法に書き込まれると、様々な権利が奪われ自由に生きることができなくなります。運輸、土木建築、IT、医療など様々な分野で徴用、徴兵制も可能になります。防衛費はますます増え、私たちの税金でアメリカから際限なく兵器を買うことに。奨学金や年金、福祉は削られ、生活は苦しくなります。

私たちができること 『安倍9条改憲NO! 憲法を生かす全国統一署名』にご協力下さい

- 署名をする。自分でも署名を集める。●周りの人に話す。SNSなどで拡散する。
- 抗議集会、学習会などに参加する。●マスコミに問題点を報道するよう意見を送る。
- 国会議員に、電話・FAX・メールで反対するよう要請する。●選挙で投票し、意思を示す。



ネット署名
もあります



安倍9条改憲NO!
全国市民アクション



〒101-0064
東京都千代田区猿樂町1-2-3 錦華堂ビル4A
☎03-5280-7157 ✉info@kaikenno.com

HP kaikenno.com
no9kaikenno
9jyokaikenno/
kaikenno/

日本国憲法第9条

1. 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
2. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

戦争
しない

武力は
持たない



安倍9条改憲で自衛隊は軍隊に

安保法以前の
自衛隊

2015年安保法で
変えられた自衛隊

専守防衛
(個別的自衛権)

日本が他国から直接攻撃を受けたとき、武力を行使して防衛する他国には攻め込まない

集団的自衛権

日本の同盟国が他国と戦争になった時、同盟国と一緒に戦争に参加する



憲法9条に自衛隊を書き込めば、集団的自衛権を全面的に憲法で認めてしまうことになります。災害救助で活躍してきた自衛隊は、戦争をする軍隊になり、アメリカ軍と共に戦場で殺し殺されることに。



金正恩朝鮮労働党委員長 文在寅韓国大統領

トランプ米大統領



迎撃ミサイルシステム「イージス・アショア」

秋田山口県に配備予定

2基で2000億円

取り扱い

宗教者九条の和

〒150-0045 渋谷区神泉町 8-7
日本山妙法寺内

署名の送り先は「安倍9条改憲NO!全国市民アクション御中」とお書きください。

内閣総理大臣 様
衆議院議長 様
参議院議長 様

安倍9条改憲NO! 憲法を生かす全国統一署名

2017年5月3日、安倍晋三首相は突然、「新たに憲法9条に自衛隊の存在を書きこむ」「2020年に新憲法施行をめざす」と述べました。この発言を受けて、改憲への動きが急速に強まっています。

戦後70年以上にわたって、日本が海外で戦争をしてこなかった大きな力は憲法9条の存在と市民の粘り強い運動でした。いま、9条を変えたり、新たな文言を付け加えたりする必要は全くありません。私たちは、日本がふたたび海外で「戦争する国」になるのはゴメンです。

私たちは、安倍首相らによる憲法9条などの改悪に反対し、日本国憲法の民主主義、基本的人権の尊重、平和主義の諸原則が生かされる政治を求めます。

請 願 事 項

- 1、憲法第9条を変えないでください。
- 2、憲法の平和・人権・民主主義が生かされる政治を実現してください。

氏 名	住 所

※いただいた署名は、国会請願と首相への要請以外には使いません。

第一次集約 2017年12月20日 第二次集約 2018年4月25日 第三次集約 2018年5月末

呼びかけ団体 **安倍9条改憲NO! 全国市民アクション**

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町1-2-3 錦華堂ビル401 TEL: 03-5280-7157

ホームページ: <http://kaikenno.com> メールアドレス: info@kaikenno.com

取扱団体

宗教者九条の和

〒150-0045 渋谷区神泉町 8-7 日本山妙法寺内